

## 保育者養成短大における音楽指導についての一考察

——保育現場の音楽教材としてのカルタ利用の試み——

川 村 愛 子

### A Consideration on the Musical Guidance in the Nurses Training Junior College

——An Attempt to Utilize Playing Cards as  
a Musical Teaching Material in Nursery Fields——

Aiko Kawamura

#### は じ め に

保育実習園の訪問の際や、実習前後の学生たちから、現場における乳幼児音楽指導の不安や悩みを聞くことが多い。保育ゼミナールでの学内学習と、実習先での実地学習との結びつきなど、保育者養成短大では、特殊な音楽指導面が重要なことを痛感してきた。

幼稚園教諭の免許と保育資格を取得する目的をもって入学し、卒業後直ちに保育者として活躍できる能力を身につける、養成のための大学では、単に音楽についての知識技能を身につけ、音楽的情操を養ったり、高めたり、豊かな心を育て、あるいは音楽の専門家を作る、基本教育の場であるだけに終ってはならない。これに加えて、乳幼児が音楽に親しみ、楽しく歌ったり、ひいたり、体ごと表現したりできるような、乳幼児への音楽指導ができる人を養成せねばならない。

従来ややもすると、学生に音楽の基礎を身につけさせれば、本人の努力によって保育の実際面に応用できる。正しい理論は必ず正しい実践に結びつく。この立場が中心であって、乳幼児への指導法、指導技術が軽視されてきたうらみがある。そのため、幼稚園・保育所という保育現場についての認識や、乳幼児の生活や心理など、指導対象の現状把握にも欠けていたのではないかと思われる。

文部省・厚生省が望んでいる養成大学における音楽の教授内容。保育の場で期待する音楽指導の適格者。さらに創造性あふれる豊かな心を持つ子に育てるための具体的方法。これらのことを考えるとき、大学で学ぶ音楽が、乳幼児の指導にすぐ役立たねばならないと考えるのである。

この意味で研究室と保育現場とがもっと密接な関係にならねばならない。研究の成果、技術、教材はどしどし現在に還元され、現在の実状、特に苦悩はどしどし研究室に持ちこまれてよい。このよう

な交流があってこそ、はじめて保育者養成短大としての役割が果たせるのである。

このような観点から、極めてささやかな研究ではあるが、教材としてのカルタの効用をひとつの出発点として、発達過程にあった音楽指導の実際と理論への考究を進めていきたい。

### 内から湧き出る『つもり』

表現活動とは、「うちにあるものを表に現わす活動」であって「思い内にあれば色外に現わる」と古来よりいわれているように、人間の持っている本能的な、しぜんに出る活動である。乳幼児期には極めて活発であって、積極的で自由で、飾り気がない。

しかし、この活動は心身の全体的発達と深い関連を持ち、放任しておいてもしぜんに高まるというものではなく、快い刺激を与えてやることによって、自発的に生き生きとした活動が展開されるのである。

表現活動を盛り立て発展させるためには、子どもの心理を無視した不当な干渉圧力はさげ、教材や用具も、興味や関心の深いものを選択できるようにしてやらねばならない。ことに大切なことは、「まね」と「つもり」の質的相違を考えた上で対応してやることである。『まね』がしだいに子どもじしんのものになるという誤った考えは捨てねばならない。

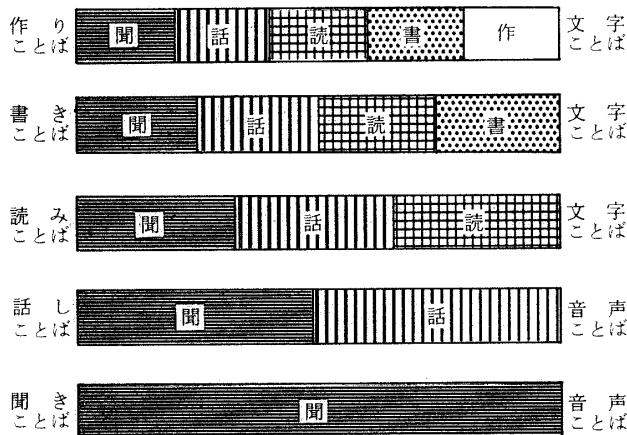
生活経験に基づかないまま、ことばや動作をしても、真の思考にならず、子どもは体で思考するとさえいわれている。たとえ『まね』が『身体表現』であっても、動物を『まね』して歩く、遊戯をおぼえて踊ったり、兎や亀がじょうずに『まね』たからといって、ただそれだけでは、『まね』の域を出ていない。『つもり』こそ、創造、表現の基本である。

### 言語表現との近似について

表現活動には、①言語表現的なもの、②身体表現的なもの、③音楽表現的なもの、④造形表現的なもの。以上4つに分けることができる。しかし、これらの活動は相互に深い関連をもって、同時的に現われたり、他を刺激したり、総合的に行なわれることが多い。

さらに縮めて音楽的能力について考えてみると、つぎの3つが総合されたものといえよう。

#### 言語の分野



①聞く能力——音楽的感受性

②表現能力——歌う、演奏する、作る、などの表現技能

③知的理解能力——音楽的情操には欠かせない能力

『言語』の指導が、①聞→②話→③読→④書→⑤作。以上の順でだんだん能力が付け加えられつつ発展していくように、『音楽』の指導にも似かよった積み重ねが考えられる。

『音楽リズム』における聞く活動について、文

部省作成『幼稚園教育指導書・領域編・音楽リズム』指導上の留意事項（抜すい）としてつぎのように述べている。

①個人差に応ずる 幼児ひとりひとりの音楽的感覚や情緒の発達は、著しい個人差がみられる。個人差を見きわめ、緊張感をほぐし、明るくのびのびと活動できるようにする必要がある。学級全体で行なう活動においても、たえずひとりひとりの個人差に応じて、励ましや賞讃のことばをかけるなどして、意欲的な活動にするようくふうする必要がある。

②幼児から引き出す 幼児の音楽リズムの指導で、特に留意することは、教師が一方的に与えるのではなく、幼児の感動をたいせつにし、自発性を尊重しながら、感覚を育てるような活動をじゅうぶん取り入れるようにすることである。

③積極的な働きかけ 創造性はしぜんのまま放置していたのでは育ちにくい。音楽リズムの活動はもちろん、日常生活や遊びの中においても、それがしぜんに育つよう、積極的に計画し、細心の働きかけを、あらゆる機会を通して行なう必要がある。

④適切な教材を選ぶ 幼児の音楽リズムの活動を活発にし、表現意欲を満足させるために利用される教材には、さまざまなものがある。幼児はこれらによって、歌を歌ったり楽器をひいたり身体的な表現をしたり歌曲を聞いたりして、そのもののもつおもしろさ、楽しさ、美しさなどに触れていくうちに、歌う力や聞く力が伸び、楽器のひき方や身体表現のしかたを会得していく。

したがって、音楽リズムの指導を効果的に進めるには、それらの教材のもつ特性や効果などをよく知って、適切なものを選ぶ必要がある。次に教材を選ぶにあたって留意する点を述べてみよう。

ア 幼児の発達の実情に即したもの 教材の内容が、幼児の能力より高すぎても低すぎても幼児は興味を示さず、活発な活動は期待できない。したがって、幼児にとって理解しやすく興味や関心をもって自ら進んで働きかけるような幼児の発達の程度に合った教材を選ぶ必要がある。

イ 音楽的に美しくすぐれたもの 領域「音楽リズム」に示すねらいを達成するための経験や活動は、幼児の表現活動を中心とするものであって、音楽リズムの美しさを味わわせ、表現の力の芽ばえを育て、幼児の生活にうるおいをもたせるようなものが望ましい。したがって、利用する教材は、音楽的に美しくすぐれたものであることが必要である。

ウ 幼児に興味のあるもので生活経験に即したもの 幼児は興味や関心をもたないものに対しては見向きもしない。また、生活から遊離したものは興味や関心をもたないことが多い。したがって、利用する教材は、幼児の日常生活の中で興味や関心をもって経験するものであって、幼児に生き生きとした豊かな活動を行なわせるとともに、表現の喜びを味わわせ、音楽が好きになるようなものであることが必要である。

エ 利用の目的に合い、効果のあるもの 音楽リズム関係の歌曲はたいへん豊かになってきているようであるが、幼稚園教育に適したもの、幼児の活動に適した教材となると必ずしも多くはない。したがって、教材を選ぶにあたっては、どういう目的で与えるのか、利用することによってどのような教育効果が期待できるかなどをじゅうぶん考慮する必要がある。

オ 多面的な取り扱いができるもの 幼児はまだ心身の発達が未熟であるから、歌っていてもし

ぜんにからだを動かしたり、楽器をひくときでも歌いながらひくなどすることが多い。そのため指導の効果をあげるには歌う教材は歌うだけ、動きのリズムの教材は動きのリズムだけの指導を考えて選ばないで、多面的、総合的に取り扱えるようなものを選ぶことが必要である。もちろんこうした教材は、思いつきで取り上げるのではなく、じゅうぶん幼児の心身の発達程度、教材の特性や効果などを考慮した発展的、系統的な計画の中に正しく位置づけられたものであることがだいじである。

静岡大学の武田道子氏は、「音楽的な活動」を詳しく述べたあとの結論として、「聞くという活動は、他の活動（歌う、ひく、作る、おどる）に先行する活動」であるとし、乳児期から楽しい音楽、美しい音楽に、すっぱり包んでやるべきだとしている<sup>9)</sup>

### 音楽リズム指導のためのカルタ利用

ドイツの作曲家カール・オルフ (Dr. h. C. Carl Orff) は、「基礎的な音楽とは、音楽単独ではあり得ないとし、そこには必ず動きがともない、ことばがついている。このような音楽こそ、子どもの生活の中にある基礎的な素朴な音楽であって、これを引き出し、それを音楽として意識させ、じょじょに質的に高めていく過程をたいせつにし、より音楽的に表現させようとするものである。これをひとことでいえば、創造性を重んじた音楽の基礎指導」であるとしている。

彼によると、音楽の3要素は、rhythm, melody, harmonyではなく、言語、リズム、動き、であると、先史的な時点でとらえ、総合的に行なうことを望んでいる。中でも言語面では、①言葉をリズム練習の手がかりとする。②言葉を音楽の素材とし音楽作品の材料などにする。③言葉を言葉本来の目的として用いる。このように、言語の役割を強調しているのに注目したい<sup>9)</sup>

歌唱の場合だけを取りあげてみても、①歌詞の内容を理解して、場面や情景を想像しながら、気持ちこめて歌う。②すなおな声でどならないで歌う。③はっきりした正しい発音で歌う。(ことに日常会話と同じく濁音と鼻濁音の使い分け、長音化など) ④音程に気をつける。⑤リズム感をもつ。⑥みんなに合わせる。その他、『話す生活』指導の一要点ともなる。

ことば指導の上で、『カルタ』を使用した指導計画例を見て、教材として極めてユニークであり、価値あるものであることに着目した。カルタは音楽指導にじゅうぶん活用できる。むしろ指導方法として手の届かなかった面を満たし、欠かせない素材であり、新しい指導ができることを確信した。

『小倉百人一首』、『愛国百人一首』は内容が和歌である。江戸時代から伝わっている犬棒カルタ、江戸や京のイロハカルタも、語呂のよい諺でできている。カルタは、古くより音楽と深い関わりをもって今日に至ったことを示している。

ことに幼児向きでは、『童謡カルタ』の名がついていなくても、リズムカルで、平易な日常のことばのなかに、高低のアクセントがあり、音節に長短がある。音楽的要素を備えたことばが多いのがカルタの特徴である。

『言語カルタ』の「あ」の「読み札」は、「あめふり、あじさい、あまがえる」となっている。コンピュータの発音は、あ—め—ふ—りという変化のない平板であるが、ことばを口でいうときは、餡はあ—め、雨はあ—め。味はあ—じ、鱈はあ—じである。しかし、基本節に派生節が着いたり、多音

節の場合はアクセントが変化したりする。雨降り(あ)め(ふ)り紫陽花(あ)し(さ)い雨蛙(あ)ま(か)え(る)となる。平板・頭高・中高の3通りが短いカルタの中に含まれて、音楽性豊かな文章とし整えられている。

ガ行の音が第1音節(「がちょう」など)のときは単に濁音で発音する。語の中途や語尾につきとき(「ひごい」「えいが」)や、助詞として使われる場合(「あめがふる」)には、鼻濁音になる。鼻濁音の nga, ngi, ngu, nge, ngo の5音のうち、「あまがえる」は当然 nga にあたる。カルタは濁音の使いかたもおぼえられる

「あ・い・う・え・お」の母音は、明るく、はっきりと、口を大きく開閉して発音する。子音も幼児音にならぬよう明確に発音させたい。そのため、日常会話の中や、ことばあそび、カルタ取りのときには、ゆっくりとていねいに話すように気をつけるとともに、カルタの、取り札を取ってから、もう一度復唱させることも、時には必要である。

平素なんの気なしに使っていることばにも、音に長短がある。東京(♪♪), 大阪(♪♪♪), 名古屋(♪♪♪), 鹿児島(♪♪♪♪)といった地名を呼ぶときや、「先生おはよう(♪♪♪♪)」という短い『あいさつ』にも音に長短の変化がみられる。

1文字ずつ拾い読みしたときは、「あ・ま・が・え・る(♪♪♪♪)」と単調であるが、ことばとして発音するときには、(♪♪♪♪)となる。

雨蛙がかわいい格好で小さく跳ぶときには、「びょん、びょん(♪♪)」。大きく跳ぶときには、「びょーん、びょーん(♪♪♪♪)」。木の幹を登るときは「よち、よち、ちょちょこ(♪♪♪♪♪ (……))」である。

蛙の鳴き声は、「ゲェロ、ゲェロ、ゲェロ(♪♪♪ ………)」。幼児がリズムを表わす音符を覚えるには、このような具体的なものを通さないと理解できない。抽象的な標記や記号だけを孤立させて、観念的に無理に教えこむことは、内容のともなわない、表面的な暗記に終わってしまうだけでなく、興味が伴わない。難解な音符を頭の中だけで丸暗記させるのではなく、抵抗なく進んで自発的に習得させるとともに、わかったかどうか、楽しんでいるかどうか、その場ですぐに察知できる方法が音楽カルタである。「聞く」、「見る」が協応して視聴覚を通してカルタを拾う「証拠」を見ることができるのである。

### 音 符 カ ル タ

音符をおぼえるためには、『ぞうさん』の絵をかいたカルタで2分音符の記号を覚える。『かめさん』のカルタの絵を見て4分音符をおぼえる。そして歩いたり走ったりして反応していく手がかりとする。

ぞうさん 大きな体で「どしん、どしん」(♪♪), 大きなお鼻をゆっくり「ぶらり、ぶらり」(♪♪)  
かめさん 頭と足を出して「のそり、のそり」(♪♪)

音 符	長 さ	歩 く 走 る
○ 全 音 符	♪ × 4	ゆ っ っ き り 歩 く
↓ 付 点 2 分 音 符	3	
↓ 2 分 音 符	2	速 く 歩 く
↓ 4 分 音 符	1	
♪ 8 分 音 符	$\frac{1}{2}$	か け 足
♪♪ 3 連 符	$\frac{1}{3}$	
♪♪♪ 16 分 音 符	$\frac{1}{4}$	速 く 走 る

- りすさん しっぽを立てすばしこく動く「するするするする」( ♪♪♪♪ )
- ペンギン 胸をはって速く、ゆっくり「よちよち、ちょちょこ……」( ♪♪♪♪…… )
- 自動車 スピードを出したり、むきをかえたり「ブーブブブ……」( ♪♪♪♪…… )
- 飛行機 すばやく「ブーン、ブーン」( ♪♪♪ …… )

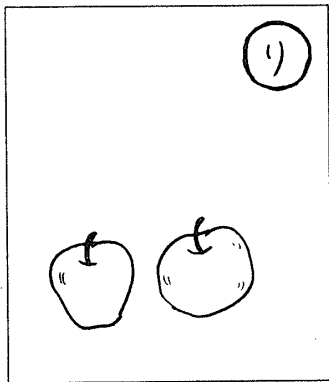
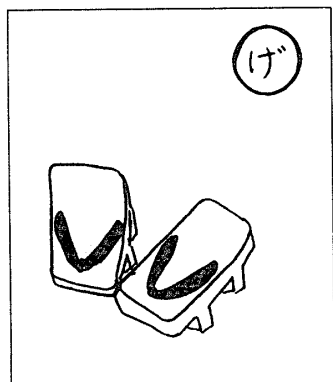
### 濁音カルタ

ことばカルタのなかで、濁音、半濁音のつくものを集めて、特に濁音と鼻濁音(ga, nga)の違いを聞き分けたり、発音したるするカルタ遊びをする。濁音はガ行、ザ行、ダ行、バ行の40字。半濁音はパ行の5字があり、ガ行は鼻濁音を発音する場合がある。濁音カルタは、主として濁音と鼻濁音の使いわけを主としているので、読み札(文字)と取り札(絵)は、ガ行のものを種類を多くし、幼児が一度におおぜい拾えるように、同じ絵を数多く並べることもひとつの方法である。

学研発売の『言語カルタC』をもとにして濁音のものを挙げるとつぎのようになる。(文字の上の・は濁音、○は鼻濁音で発音する語であることを示す。)

- |   |          |       |        |      |       |       |          |
|---|----------|-------|--------|------|-------|-------|----------|
| が | ががちりかぶって | ぬげない  | かぶと    | ちよがみ | ちいさく  | ちぎって  | はりえ      |
|   | ががああ     | がちょう  | ががああ   | あひる  | ぎ     | むぎのほ  | あおあお     |
|   | がぎら      | めだま   | ぎんやんま  |      |       | むぎばたけ |          |
| ぎ | ぎんぎら     | めだま   | ぎんやんま  | ぞろぞろ | ぎょうれつ | えさはこび |          |
|   | ぎっちゃん    | ぎっちゃん | きりぎりす  | やつめ  | うなぎの  | めはふたつ |          |
| ぐ | ぐるぐる     | まわる   | かぎぐるま  | ぐ    | うぐいす  | うたう   | うめの      |
|   | ぐんぐん     | とびます  | グライダー  |      | ころころ  | こぐま   | なかよしさん   |
| げ | ごこげこ     | げろげろ  | げんきな   | かえる  | もぐら   | もくもく  | トンネルこうじ  |
|   | げんきに     | はやおき  | こけこっこー | げ    | れんげの  | のはらを  | れっしゃがはりす |
| ご | ごはんに     | ごましお  | おいしい   | おにぎり |       | おにさん  | こちら      |
|   | ごにん      | ばやしの  | なかよし   | ならぶ  |       | にげまわる |          |
|   | ごまのみ     | ごまつぶ  | ごまあぶら  |      |       | かげふみ  | やってる     |
| が | おりがみ     | おりづる  | おきのめん  |      | ご     | ままごと  | あそびで     |
|   | ざりがに     | にげた   | さんねん   | さんねん |       | ママのまね |          |
|   |          |       |        |      |       | けしゴム  | つかって     |
|   |          |       |        |      |       | かきなおし |          |
|   |          |       |        |      |       | あか    | きい       |
|   |          |       |        |      |       | あおの   | しんごうき    |

『なぞなぞカルタ』で、その答えが、濁音で発声する語をカルタにしたものを一例としてあげてみる。



- しかくい かおに はがにほん (げた)
- まっかな くだもの ひとりごと (りんご)
- なつのおにわの はやおきさん (あさがお)
- ぎっちゃん ぎっちゃん くさのなか (きりぎりす)

## 歌詩の絵カード

幼児が歌詩を覚えるときに、1節ずつ繰り返しかえして口でいったり、歌ったりすると、ことばの意味や内容がつかめないままに、口真似している場合も多く、ときには誤った訛りや幼児音で歌っていることがある。

歌詩をじゅうぶんに理解し、曲の持つイメージをつかんで歌うためには、詩の内容が強く頭にひらめくことが先決である。そしてその内容が表現されなければならない。詩を文字という標記で黒板に書いても、文字の読めない幼児も多いし、たとえ読めたとしても、拾い読みでは内容まではわからない。

耳で聞く聴覚と同時に、詩の内容を絵で画いた具体的な事物や情景を視覚で捉えることが最も印象を強めるし、絵を見ながら歌える。教師の側では絵を指し示しながら指導できるから、節の順序もはっきりして教えることができる。

『絵カード』は、1曲が1枚になっていて、裏面には歌詩の全文と楽譜が記載されている。その点で紙芝居とよく似ている。表の画面を見せながら、教師は正確に詩と譜を見て指導できる。『絵カード』



を数枚組みにして子どもに持たせることもあるし、教師が持つかわりに、ロープに洗濯ばさみで止めて吊るす方法もある。

カードの大きさは場所や人数に見合うように、手作りにするのがよい。ジャンボカルタを教師が作ったり、子どもに作らせたりして、教室や遊戯室、広い運動場に並べて、ピアノの曲やマイクの声で、いっせいに拾わせる豪放な遊びで効果をあげている実例が既に発表されている<sup>3)</sup>

『めだかの学校』では、1枚の画面に、たくさんのめだかが小川の中に集っていて、川にかかっている橋の上から、男の子がのぞいている。みんながお遊戯しているが、どれ

めだかの学校

茶木 滋 作詞  
中田喜直 作曲

♩ = 108  
mp

1.めだかのかわのなか  
2.めだかのめだかたち  
3.めだかのうれしそう

mf pp

そつどのぞいてみてごらん そつどのぞいて  
だれがせいとかせんせいか だれがせいとか  
みずにながれてついつみずにながれて

mf

みてごらん みんなでおゆうぎしているよ  
せんせいか みんなでげんきにあそんでる  
ついつい みんながそろってつーいつい

どんぐりころころ

青木存義 作詞  
梁田 貞 作曲

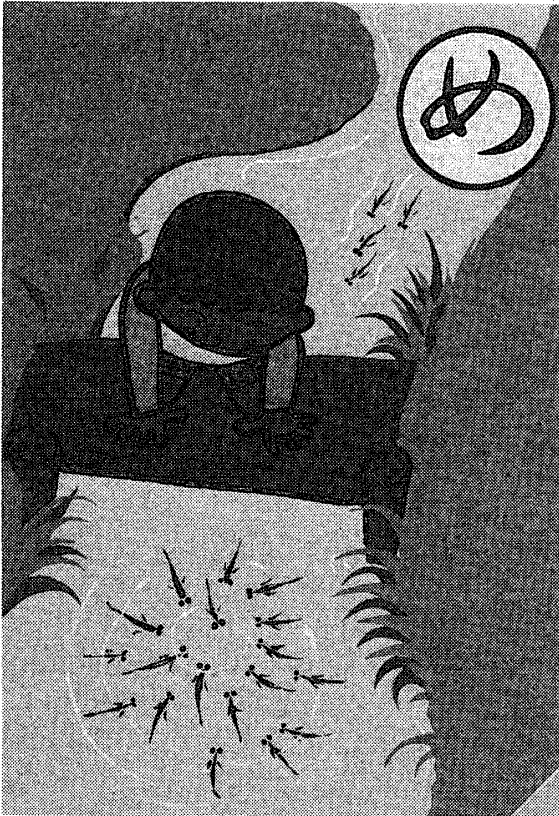
おもしろく ♩ = 80  
mf

1.どんぐりころころぶぶりこ  
2.どんぐりころころぶこんで

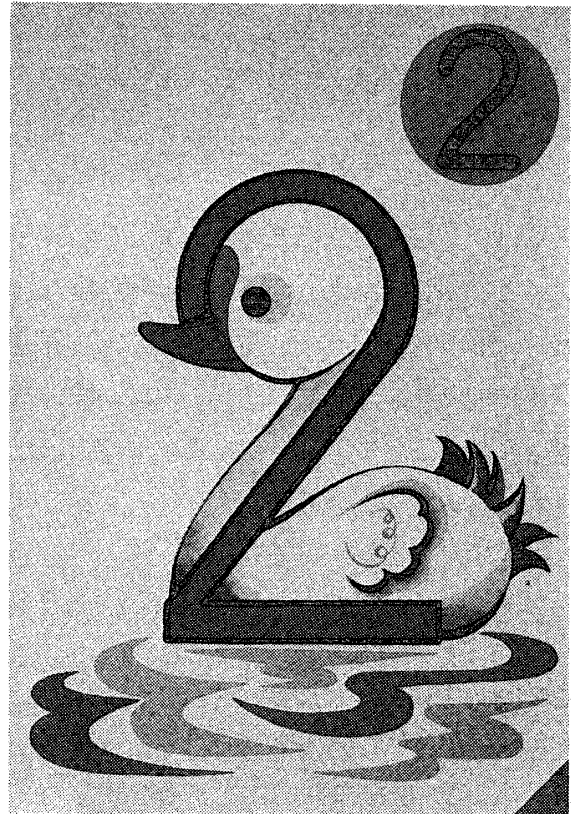
おいけにはわってあたいたい どほうがでてきて  
しばらくついにあそんだが やうばりおやまが

こにちはほろほろに あそびまじ  
こしいと ないはどほうを こまらせた

「めだかの学校」の絵カード

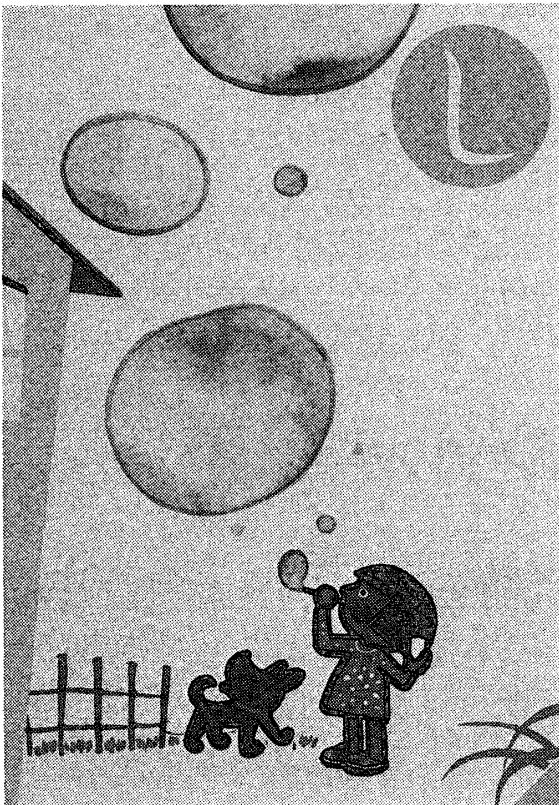


「すうじのうた」の絵カード



高橋系吾編「うたのカード」(教育出版)ヨコ21cmタテ30cmのカードを縮めて転載しました。

「しゃぼんだま」の絵カード(表)



「しゃぼんだま」の絵カード(裏)

しゃぼんだま

野口雨情 作詞  
中山晋平 作曲

♩ = 72 ゆかいに

1 しゃぼんだま とんだ  
2 しゃぼんだま きえた

やわまで とんだ やわまで とんで こわれて きえた かせかせ  
とばすに きえた うまれて すぐに こわれて きえた

ふくふく しゃぼんだま とばす

しゃぼんだま きえた  
とばすに きえた  
うまれて すぐに  
こわれて きえた  
かせかせ ふくふく  
しゃぼんだま とばす

しゃぼんだま  
しゃぼんだま とんだ  
やわまで とんで  
こわれて きえた



が生徒で、だれが先生なのか見分けがつかないほどよく似ている。

『どんぐりころころ』は、はじめの1枚はどんぐりがお池に向ってころころと歩いていく絵。2枚目はお池に飛びこんだ絵。3枚目はお池の中で、どんぐりとどじょうがあいさつしている。4枚目はどんぐりがいない。紙芝居とおなじように4枚1組にする<sup>(4)</sup>

幼児は抽象概念はよく分からない。絵で示された具体的事物や状景を、目で見ることによって、歌の中に没入することができる。

これに着目して、脳卒中による言語障害の治療に役立て、すばらしい効果をあげていられるのが、慶応大学医学部重野幸次医長である。言語障害専門のリハビリテーション施設、伊豆<sup>にらやま</sup>山温泉病院では、脳神経細胞の損傷によって失語症になって、話す、聞く、書く、読むの4つのことばの働きを、全部又は大部分失われた、全失語、健忘性失語、感覚性失語、運動性失語の患者に絵カードを適用されている。これは失語症と似た症状を持つ痴呆症にも効用があると報告されている<sup>(5)</sup>。いわゆる老人ボケを防ぐこともある程度可能であることが実証された。

年齢や職業を聞かれても、質問の意味さえ答えられず、ただ簡単なことばがおうむがえしに反響復唱できることを手がかりとして、1か月に10枚ほどの絵カードを見せて、視聴覚を刺激して言語機能を再編成させて知能の回復に成功した重症患者の実例もある。

## 音あてゲーム

教師は人形劇の舞台から顔だけ出して、打楽器や、音の出るものを子どもから見えないように、腰をかがめて(♪♪)又は(♪♪)と3回鳴らす。子どもは楽器や音のするものの名を答えたり絵を捨てたりする。みんなで「たいこのおへんじ」と節をつけていわせる。教師は立って子どもからよく見えるように、たいこを見せて舞台上「ドン、ドン、ドン」とたたいたり、音を出したものを見せる。

教師が「この音なあに(♪♪♪|♪♪♪)」と、かくれたままで音を出して、子どもが答えたら、「あたり」といって、楽器を見せて鳴らす。

楽器の名を覚えるのにも都合がよい。音あてに使う楽器は旋律楽器よりも打楽器から始めたほうが記憶しやすく、音あてをした子どもには、ごほうびとして、あてた楽器を3回だけ鳴らせると、この遊びはいっそうもりあがる。

同じ名まえの楽器にも、いろんな種類があるが、幼児が合奏できるものとしては、つぎのようなものが適当である。

### 1. 無音程打楽器

カスタネット (Castagnette 伊), トライアングル (Triangolo 伊), 鈴 (Belle 英), タンブリン (Tamburo Basco 伊), 大だいこ (Gran Cassa 伊), 小だいこ (Tamburo Militare 伊), シンバル (Piatti 伊), ウッド

### 大きなたいこ

小林純一 作詞  
中田喜直 作曲

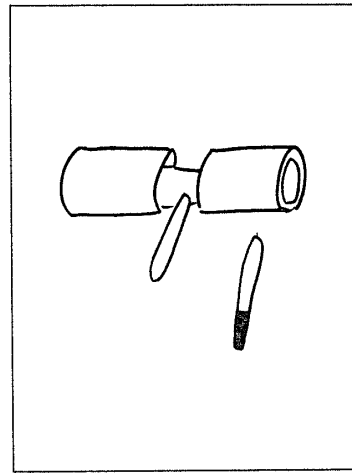
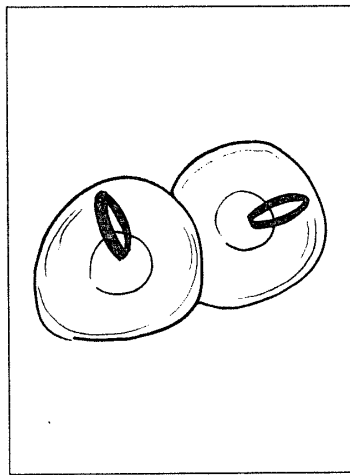
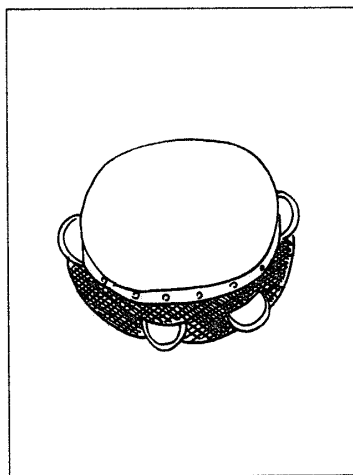
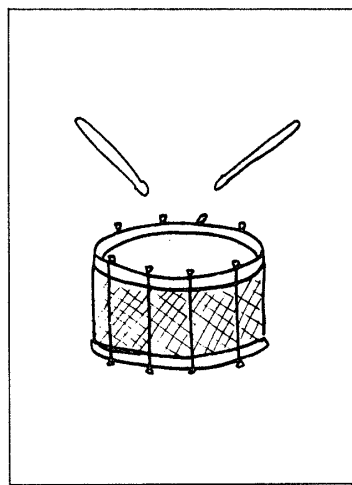
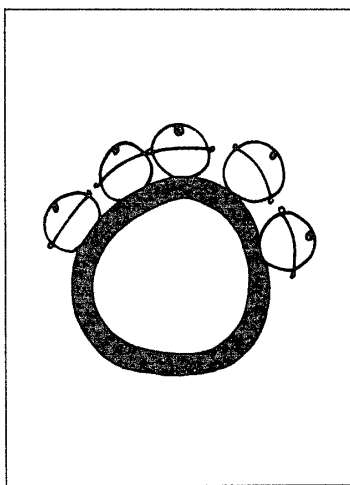
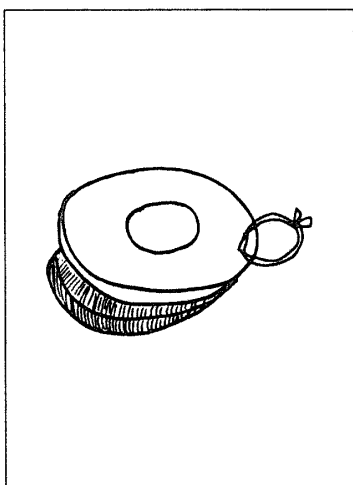
お へ ん じ

波谷重夫 作詞  
渡辺 茂 作曲

$\text{♩} = 112$   
*mf*

1 た い こ の お へ ん じ ドン ドコ ドン  
2 こ い ぬ の お へ ん じ リン ワン ワン  
3 お や ま の お へ ん じ ヤッ ホー

よ い こ の お へ ん じ はあ い はい



ブロック (Wood Block 英)

2. 有音程打楽器

木琴 (Vilofono 伊), 鉄琴 (Glockenspiel 英)

音あてゲームから発展して、「かねをつくおと」と、口で歌って、「ゴーン、ゴーン、ゴーン」とそろえて歌ってもよい。「とけいのおとは」「コチコチコチ」

動物の鳴きまねあそび、擬音語あそびへと移っていくなかで、リズムカルな問答歌、音程のあることばのおもしろさを知らせて、日常のあそびと音楽が生活の中で一体化していきたい。ふしはしぜんのアクセントから離れないよう、技巧的に陥らないことに注意したい。子どもじしんの手で語呂がよくて、長短、強弱、高低などの変化のあることばや、作曲にも通じるような独創的表現を促したい。

譜 面 つ き カ ル タ

幼児は楽譜、音符、記号、歌詩を読み取ってから、歌ったり、ひいたり、体で表現したりするのでない。歌を聞いて楽しいと思ったり、同じ曲をくりかえして聞いてしぜんに覚える。この過程のなかで、譜が読めることは、文字が読めると同じように、じぶんで都合がよくて便利だなど、必要であると感じる指導が大切である。

しかも教えこむのでなく、進んで興味を持って親しませるための動機づけから、段階的に楽しく学ばせることが必要である。正確に歌を覚える方法は、何んといっても、譜面が読めることが基本である。

年令の低い幼児には、音符の長短や高低に気づきやすく、しかもよく知っていて歌えるやさしいも

かかし

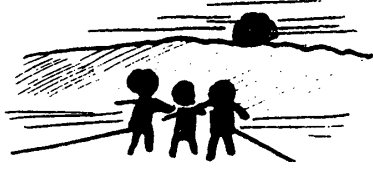


♩ = 112




1. 2. やまだの なーかの 心ぼあしの かかし

夕焼け 小焼け




♩ = 84




中村雨紅 作詞  
草川 信 作曲

1. ゆうやけ こやけで ひがく れて

手をたたきましょう




作詞 作曲者不明

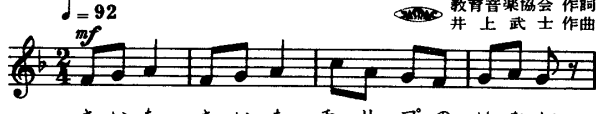


1. 3. てを た た き ま しょ う を タンタン

チューリップ



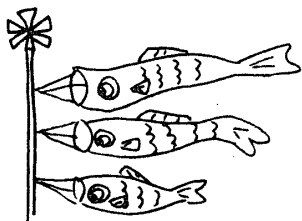
♩ = 92



教育音楽協会 作詞  
井上 武士 作曲

さいた さいた チューリップの はなが

こいのぼり



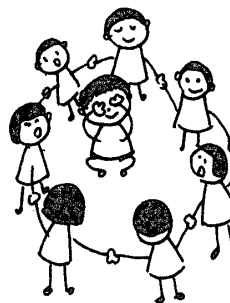
ほたたる



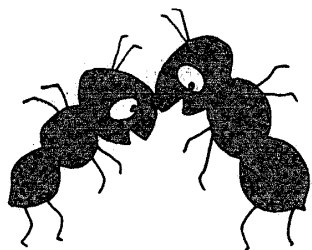
たきび



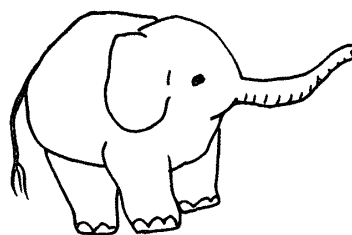
かごめ かごめ



おつかい ありさん



ぞうさん



♩=112  
mf  
もう いくつねると

♩=66  
mf  
ひらいた ひらいた なんのはなが ひらいた

♩=112  
mf  
かくれんぼ するもの よついで

♩=112  
ポケットの なかにはビスケットがひとつ

ので、特徴のある歌の譜の1部分と絵、文字の読める子のためには題名をのせたカードを用意して遊ばせる。このカードは幾種類も、そして同じカードを何枚も作って、ピアノまたはオルガンを聞いて拾う。拾ったら手に取ってよく見ながら、譜面に合わせて歌う。

『このぼり』、『ほたる』、『たきび』、『かごめかごめ』、『おつかいありさん』、『ぞうさん』など、曲あてゲームに合わせてカルタとりをする。

年長の幼児には、絵や題名のない譜面だけの、横に長いカルタで遊ぶ。各曲の最初の部分が、「お正月」は♪♪♪、「ひらいたひらいた」は♪♪♪やvの記号が、「かくれんぼ」には♪♪♪♪があって、♪があり、「ふしぎなポケット」は低い音程の♪があることに気づかせたり、 $\frac{4}{4} \frac{2}{4} \# \flat$ の意味もしぜんに関心を示すようにするのに都合がよい。

## 結 び

感覚能力の発達の中で、音楽に深い関心をもつ聴器官は、すでに胎児のときに、完成するといわれる<sup>6)</sup>。胎教が古い時代には道徳的意味で考えられてきたが、胎内において聞きなれた快い音楽に対して、大きく反応することが透視カメラによって実証され、広くテレビでも放映された。

出生後1週間ほどで大きい物音や鋭いかん高い声に反応すると発達心理学でいわれてきたが、これまた最近の実験では、出生当日に反応を示している状態が、テレビカメラに収められている。

聴覚の刺激はことばとともに音感の発達に大きな影響があり、環境的な面と、意図的な面との両面からの指導がおおいに意味をもつ。1才前後には音楽に合わせて体が進んで動かそうとしたり、まねをしようとするようになる。2才になるとリズム的なことばを使い、リズムに合わせた歩行遊戯をし、

音程は正しくないが歌を口ずさみ、レコードなど音楽を聞こうとする。3才では音楽の反応もはっきりし、メロディーを即興的に歌うことができ、グループで歌うことも少しずつできるし、楽器にも興味を示す。4才になると、正しい音程やリズムがわかりはじめ、強弱の比較、テンポの変化に応じられるまでに、著しい音楽能力の発達が見られる。また身体表現も豊かになる。5才児は、音程、リズムも正確になって、単独や集団の中で、聞く、歌う、ひく、おどることができるようになり、曲想の変化も気づくようになり、表現できるまでに発達する。

このような急速な発達を示し、しかも生涯の基礎を築く乳幼児音楽教育は、適切な指導者を得、すぐれた教材により、より楽しく親しめるような、行き届いた指導法が、欠くべからざるものである。これは乳幼児音楽の専門家、幼稚園保育所の教師が荷なわねばならないのである。単なる音楽のプレーヤーではなく、音楽ティーチャーによる指導が必要である。

ひるがえって、短大幼児教育学科における学生指導は、保育内容の研究としての『音楽リズム』として教職単位、音図体その他計4教科という専門科目のひとつ『音楽』の指導内容として、直接乳幼児を指導できる教育法、中でも具体的な教材の扱い方についての指導が極めて重要であることを再認識したいと考える。

その一端として、カルタ利用の試みについて述べた。不備な点は今後の研究によって補いたい。また、これを足がかりとして、いっそうの研究と、技術を磨くことに専念していきたい。この研究にあたって、わたくしの学生時代に、『保育原理』と『言語』の講義をしていただいた、本学の醍醐定徹教授に、助言指導を賜ったことを付記して、結びとする。

## 参 考 文 献

- (1) 『音楽リズム』音楽的な活動、武田道子、P. 22, 1980, 同文書院。
- (2) 『Orff-Schulwerk 理論とその実際』星野圭郎、全音出版。
- (3) 『幼児のことは指導』「ジャンボかるた」長尾ゆき子、P. 119, 醍醐定徹, 1981, 宣協社。
- (4) 『指導計画——解説と実践例』お話づくり、市川紀子、P. 146, 1978, 仏教児童文化研究所。
- (5) 『体からの警報』脳卒中後の失語症、1981, 中日新聞社。
- (6) 前掲書『音楽リズム』資料編、水修孝稿、P. 129, 1980, 同文書院。

(1981. 10. 12. 受理)